

令和 6 年度
学校関係者評価報告書

令和 7 年 6 月
獨協医科大学附属看護専門学校

I. 領域別評価

1. 教育理念・目的・期待する卒業生像	地元に根付いた医療に貢献できる人材を育成しながら、同時に世界で通用する視野の広い看護師の育成にも力を入れている。 「災害看護と国際看護」の科目を設定し、社会情勢や多様化される社会をより深く理解することで、人を対象とする看護に良い影響があると思われる。 地域社会のニーズに適合するようディプロマ・ポリシーを掲げているとあるが、地域社会のニーズの範囲や根拠が不明確であり、高度・急性期医療に特化するだけでなく、2050年問題も見据え、厚生労働省の示す「地域医療構想」にも着目する必要がある。
2. 学校運営	運営組織において、決定権限、委員構成を明確にし、円滑な運営を行っている。また、学生とは適切にLMSを利用し学生との意思疎通を図っている。 勤怠管理システムが導入されたことで、教職員の方々の働き方改革の推進が図れることを期待するが、他校も教員不足が顕在化されており、質の高い教育を提供するには資源獲得が重要かと思う。
3. 教育活動	資格取得に向けて、計画的にカリキュラムを構成し、キャリア支援コーナーで人材の教育に力を入れていることがわかる。 また、国家試験対策や模擬試験の実施など、具体的な取り組みがされており、教員の確保、育成も一定水準を維持している。 就職先へのニーズ調査及び卒業生に対するアンケート結果を反映させる取り組みが予定となっているため、より取り組みを強化していただきたい。
4. 学修成果	個別指導をより充実させているところは評価できる。合格率100%に向け、さらに個別指導、学生との意見交換をフィードバックし、指導体制を見直していく必要がある。 令和4・5年度は、全国平均を下回っており受験生も減っているため、国家試験対策に尽力いただきたい。
5. 学生支援	担任制で相談しやすい環境であり、定期面接で学生個人の特性を理解し、ひとり一人に合った支援を行っているのは評価できる。中途退学者の学業の問題、家庭の問題等をデータ化し、分析を継続していくことが必要である。
6. 教育環境	校舎の老朽化はあるが、LANが完備されタブレットを用いて学習の効率化を図っており評価できる。教室・会議室等不足の問題があるので、順次改修されることを期待する。
7. 学生の募集と受入れ	18歳未満の人口が減少する中で学生の獲得には大変苦慮されていると思う。特に看護基礎教育が4年制大学に移行する傾向が強いため、学校の努力だけでは難しい時代になってくる。 学生定員の見直しも必要ではないか。優秀な学生の確保、育成を継続してもらいたい。

8. 財務	適切な評価がされており、教職員全員が経費削減に努めている。特に問題はない。
9. 法令等の遵守	関連法令に基づき、学校運営がされている。今後も教育機関として適切な取り扱いをしてもらいたい。学校ホームページに十分公表できている。
10. 社会貢献・地域貢献	評価は、「4 適切」と判断できる。ボランティア要請があった際に、どのような活動支援を行っているか（要請内容の周知、公欠対応、学生保険制度説明等）を示すことが重要である。修学期間中、ボランティアに積極的に参加し、社会貢献・地域貢献した学生を表彰する制度が望ましい。

Ⅱ. 総括

適切に学校運営がなされており、教育理念・教育目標に基づいた看護師を育成するため、教育活動や学生支援に取り組んでいる。看護師国家試験合格率を上げるため、学校が一丸となって鋭意努力をしている。多職種と連携して適切な保健・医療・福祉を提供することが看護職者に期待されており、地域社会のニーズに適合するよう専門職として広く社会や地域に貢献できる看護師の育成を期待する。